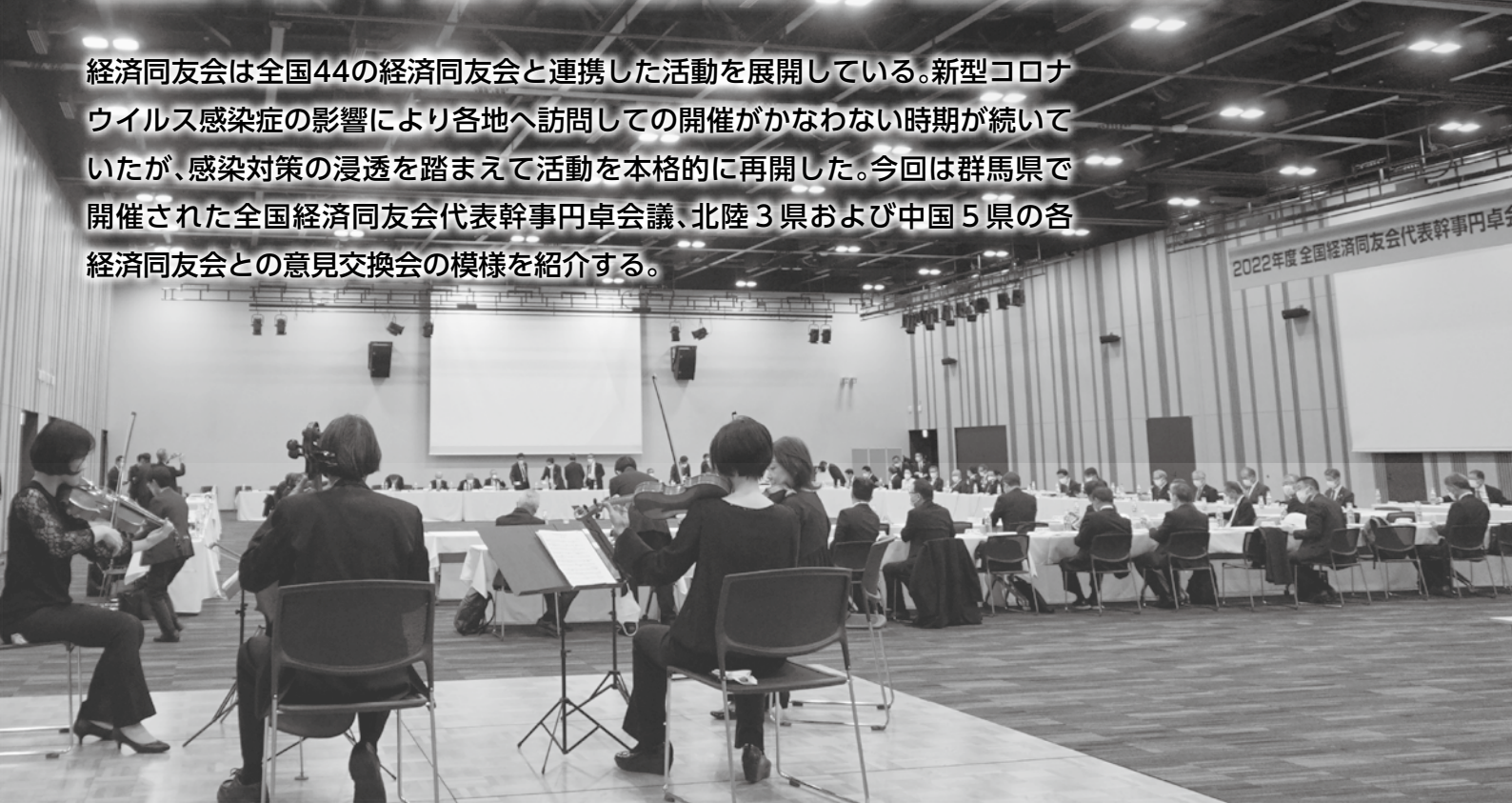


各地経済同友会との連携・活動

全国経済同友会代表幹事円卓会議

北陸3県・中国5県同友会との意見交換会

経済同友会は全国44の経済同友会と連携した活動を展開している。新型コロナウイルス感染症の影響により各地へ訪問しての開催がかなわない時期が続いていたが、感染対策の浸透を踏まえて活動を本格的に再開した。今回は群馬県で開催された全国経済同友会代表幹事円卓会議、北陸3県および中国5県の各経済同友会との意見交換会の模様を紹介する。



群馬交響楽団の演奏で円卓会議のオープニングを飾った



中国5県同友会意見交換会：原爆死没者慰霊碑（広島平和都市記念碑）に献花



中国5県同友会意見交換会



円卓会議：世界遺産・富岡製糸場を視察



北陸3県同友会意見交換会

INDEX

2022年度全国経済同友会 代表幹事円卓会議、高崎で開催	16
北陸3県経済同友会代表幹事との意見交換会	18
中国5県経済同友会代表幹事との意見交換会	20

2022年度全国経済同友会 代表幹事円卓会議、高崎で開催

全国の経済同友会代表幹事が一堂に会する全国経済同友会代表幹事円卓会議が12月5日、群馬県高崎市で開催された。全国経済同友会セミナーの企画案などの議事承認、各地経済同友会の活動報告のほか、群馬の地域史を研究する手島仁氏による講演会を行った。



開会挨拶



櫻田 謙悟
経済同友会 代表幹事

本日の代表幹事円卓会議は2019年滋賀大会以来のリアル開催となった。この間、私たちを取り巻く環境は激変した。イスラエルの哲学者ユヴァル・ノア・ハラリ氏は著書『ホモ・デウス』の中で、「人類は自らにとって最悪の敵であり続けた、飢饉と疫病、戦争を克服しつつある」と述べ、私たちは明るい未来に想いを馳せた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大、ロシアによるウクライナ侵攻、それに伴う食糧危機と、時代は私たちの希望を打ち砕いた。

日本を取り巻く情勢も大きく変わった。物流は滞り、私たちの生活を直撃している。感染症対応を通じて、日本のDXの遅れも明らかになった。いつかは危機を乗り越えて、再び日本が世界で輝くために、目指す社会像、グランドデザインを明確に掲げて、国民総力を挙げて取り組むべきである。

一方で、感染症の拡大はテレワーク、在宅勤務を浸透させ、人々の働き方や意識に変化をもたらした。各地でテレワークやワーケーションへの取り組みが盛んになり、新たなライフスタイルやワークスタイルを求める若い世代の地方移住が増えている。こうした状況を受け、長らく大きな変化がなかった

中央と地域のあり方も含めて変えていくべきだ。

今こそ、危機を乗り越えて、目指す社会像の実現に向けて共に努力し、行動していきたい。



齋藤 一雄
群馬経済同友会 代表幹事

群馬県は日本列島のほぼ中央に位置しており、利根川は群馬の谷川岳にその源を発し、関東平野はここから始まる。地形は、郷土を読み込んだ『上毛かるた』に「つる舞う形の群馬県」とうたわれるように「鶴」の形によく似ている。深田久弥の日本百名山のうち群馬は11座を数え、尾瀬湿原などととも大自然に恵まれた土地柄であり、草津温泉をはじめ96の温泉地を抱える関東一の温泉県でもある。

また、自然災害が少なく、首都圏にも近いことから、工場立地件数・面積は毎年全国トップクラスの実績を上げている。主要産業は輸送用機械、食料

品などの製造業だが、特に輸送用機械は県内の製造品出荷額の3割を占めている。

本日会議が開かれているGメッセ群馬は、首都圏と北陸・信越との結節点である高崎市に2020年6月に誕生した。上越・北陸の両新幹線が乗り入れるJR高崎駅から徒歩15分の場所に位置し、東京から60分ほどでアクセスが可能だ。国際会議やイベント、各種コンサートなどが開催されている。また、先ほど演奏を披露した群馬交響楽団は1945年、戦後の荒廃の中で文化を通じた復興を目指して創立され、定期演奏会や移動音楽教室など幅広い音楽活動を展開し、群馬県の芸術・文化の象徴として県内外から幅広く支持されている。

私たち群馬経済同友会は戦後復興の途上である1956年3月15日に53人の有志によって発足した。それ以来、時代の変化を幾度となく乗り越えてきた。今回、群馬で代表幹事円卓会議が開催されたことは群馬経済同友会の歴史に1ページを加えるものであり、今後のさらなる発展のきっかけとしたい。

産業視察 日本経済発展の礎である富岡製糸場（富岡市）を視察した。



講演
**蚕糸先進県から内陸型重工業県、
そして政治王国へ**

—群馬県の歩みと特長—


手島 仁氏 群馬地域学研究所 代表理事

**製糸業を日本の基幹産業にした
前橋藩士**

2015年のNHK大河ドラマ『花燃ゆ』の主人公の一人である吉田松陰の末妹・文は初め久坂玄瑞に嫁ぎ、玄瑞の死後は美和と名を変え初代群馬県令・楫取素彦と再婚した。そのため『花燃ゆ』全50話のうち第41話から第50話の10回は群馬編となっている。私はその時代考証を担当した。

楫取素彦は県令として群馬県民の才能を伸ばした慈父的存在であり、夫人は県民に寄り添った悲母的存在だったと私は思う。群馬県は幕末から養蚕製糸業による近代化への歩みを進めていたが、楫取夫妻はそれを後押しした。群馬編では、養蚕製糸に従事した群馬県の女性の姿が描かれている。最終話の第50話で、県令夫人として鹿鳴館に招かれた美和がそうした群馬の女性を称える言葉を述べている。

このように、戦前の群馬は蚕糸業・絹産業の最先端県だった。絹産業が盛んになったきっかけは、日本で最初の洋式器械製糸所である藩営前橋製糸所が創立されたことだ。その中心人物が前橋藩士の深沢雄象と速水堅曹である。

深沢、速水を中心とした7人の前橋藩士は国益を重視し、製糸業を日本の基幹産業にしようと努力した。当時海外で高く評価されていた前橋の糸の粗製乱造を防ぐため、生糸商人と協力して藩営前橋製糸所を造った。当初、英国の商社から共同経営を打診されたが、深沢らはその申し出を断り、またスイ

ス人技師を4カ月で解雇するなどして外資の進出を排除した。さらに、当時の大蔵省に器械製糸の良し悪しをきちんと報告し、その全国普及に貢献した。また、速水の姉・西塚梅が職業倫理を説いたことも製糸業の発展に大きく貢献したと考えられる。

藩営前橋製糸所には全国から多くの人々が訪れ技術を学んだ。その結果、全国各地に製糸所が造られ、多くの製糸都市が誕生した。製糸業が日本を救ったのである。

戦後は内陸型重工業県として発展し、今や工業生産出荷高は四国4県または北陸3県よりも群馬1県の方が多いほどの工業地帯となった。絹産業県から重工業県に転換する歴史的源流は、中島飛行機を創設した中島知久平である。

**国家国民のために
飛行機製造を始めた中島知久平**

重工業県への転換に貢献した中島知久平は学閥も門閥もなく、エリートでも名門でもない。だが、財閥の三菱、川崎に一步も引けを取らなかった。

知久平は日本の国防方針である「大艦巨砲主義」に異議を唱えた。日露戦争で連合艦隊がロシアのバルチック艦隊を撃破したことにより、世界は軍艦の数を競う建艦競争に突入した。しかし知久平は、経済力の弱い日本が建艦競争を続ければ国民が重税に苦しむ、航空兵力中心主義にすべきだ、と主張した。だが、海軍首脳部に相手にされなかったため、知久平は海軍を辞めて群馬に帰り、養蚕小屋を借りて裸一貫で飛行機製造を始めたのである。すると、知久平が主張した通り航空機の時代になり、中島飛行機は日本一の飛行機メーカーに急成長した。知久平の飛行機製造業は金儲けのためでなく、国家国民のためであった。

さらに知久平は政治家となり、日本の国防方針を航空兵力中心主義に改めて空軍省を創設すべく奮闘した。だが、陸海軍の抵抗で実現せず、やがて太平洋戦争で米軍に制空権を奪われた日本

は敗北した。

中島飛行機は戦後、富士重工業となり自動車製造を開始した。飛行機製造の技術が自動車製造に活かされただけでなく、多部品組み立て産業だったことで群馬県は内陸型重工業県となった。中島飛行機に直接的、間接的にかかわった企業は現在も群馬県の産業を支える企業となっている。

**知久平の遺志を継いだ
戦後の政治家たち**

大正13年(1924年)加藤高明内閣成立以来、昭和7年(1932年)の五・一五事件で犬養毅内閣が倒れるまで、立憲政友会と立憲民政党の二大政党が交互に内閣を組織していた。しかし、スキャンダルや汚職などにより、政党政治の不信を招いて軍部が台頭した。そうした中で知久平は、政党は政策が第一、政治家は政策立案能力が必要だと、学者や官僚OBなどを集め、私財をなげうって民間初のシンクタンク国政研究会と国家経済研究所を創設した。

知久平は自由主義に計画や統制を導入して再配分や格差を是正する、修正資本主義を唱えた。日本の戦後政治は自由主義の吉田茂や鳩山一郎を保守本流として始まったが、自由民主党は修正資本主義を採用して長期政権を築いた。知久平は政界随一の政策通で、総理・総裁候補となったものの、反対勢力により実現しなかった。

その遺志を継いだのが戦後の郷土の政治家である。群馬県からは福田赳夫、中曽根康弘、小渕恵三、福田康夫と4人の総理大臣を輩出した。また、国務大臣を2回以上務めた政治家が4人、1回務めた政治家が11人いる。こうした政治王国を築いたのも、中島知久平の遺産である。

吉田松陰や渋沢栄一のような人物は、日本各地にいた。その結果、日本は近代国家に生まれ変わった。各地の精神や未来を思う力を認識することが地域再生の第一歩であり、それを基に地域づくりをすることが大切である。

北陸3県経済同友会 代表幹事との意見交換会

櫻田謙悟代表幹事ら経済同友会幹部は、11月8～9日にかけて福井市を訪問し、北陸3県の代表幹事との意見交換を行った。この地域は「生活者共創社会」にも通じる幸福度ランキングの上位に名を連ねる。各地の課題意識や取り組みに関して、活発な議論が行われた。



開会挨拶



櫻田 謙悟
経済同友会 代表幹事

2019年に代表幹事に就任して以来、コロナ禍により延期せざるを得なかった北陸3県経済同友会代表幹事との意見交換会ができることをうれしく思う。

先日、『「生活者共創社会」で実現する多様な価値の持続的創造—生活者(SEIKATSUSHA)による選択と行動—』を公表した。過去30年間にわたる日本経済の停滞を振り返ると、改革のメニューは明らかになっているにもかかわらず、過去の成功体験に逃げ込み、改革の実行から逃げ続けてきた。人々の共助を支えとして、経済成長と個人の幸福が両立する社会こそ目指すべき日本の将来像であり、その実現のキーワードは「生活者」である。

都道府県別幸福度ランキングトップ5に入る北陸地域からヒントをいただき、「生活者共創社会」の実現に向けた一歩にしたい。



林 正博
福井経済同友会 代表幹事

北陸新幹線が2024年3月に福井県敦賀市まで延伸する。本会としても新幹線の開業を一時的ではなく、サステナブルな

効果に落とし込んでいくことが大きな課題である。

一方で、新幹線が京都や大阪につながるルートは確定したが、予算や着工時期がまだに決まっていない。北陸新幹線は新大阪までつながって初めてその効果が発揮できる。東京の経済界からも応援していただきたい。

東京の経済同友会と北陸3県経済同友会代表幹事との意見交換は6年ぶりになるが、今後どのように日本を再興していくのかは大きな課題である。本日の意見交換会を通して、少しでも方向性を見いだしたい。

各県経済同友会による取り組み紹介

櫻田代表幹事は「生活者共創社会」を動画と資料で説明し、「民主導でイノベーションと成長を牽引する『真の経営者の時代』がやってきたという決意を持って日本経済を牽引していく」と、各地代表幹事に向けて呼び掛けた。続いて各地の代表幹事がそれぞれの取り組みについて報告した。

富山経済同友会

妻野 英順 代表幹事

富山県には野球、サッカー、バスケットボール、ハンドボール、バレーボールのプロチームがあり、本会ではスポーツを活用したまちづくりの推進を提言した。また、富山県には四つの医療圏があるが、病床数の再編、その実

現に向けた地域医療連携推進法人化を提言した。

観光資源のブランディングも活動の柱の一つだ。2002年に富山の魅力発信のため「立山大使」制度を創設し、趣旨に賛同した会員らに立山大使の名刺を携帯してもらい富山を全国にPRしていただいている。ポストコロナ、ウィズコロナ観光戦略は、北陸3県一体となって進めていくべきだと提言する予定である。

また、スタートアップの支援戦略として、2020年から富山ニュービジネス協議会、とやま未来共創チーム、富山大学と本会と共催のビジネスコンテスト「スケッチオーディション」を実施している。人づくりに重点を置き、昨年度から富山大学では、データサービスにも力を入れ始めた。本会会員所属企業を寄附講座に積極的に参加させるとともに、データを提供する支援をしている。

金沢経済同友会

福光 松太郎 代表幹事

本会は四つの会議で活動している。一つは創造都市会議で、県、市、大学と本会で構成し、地域に対してさまざまな提言を行っている。第二に、地域戦略会議では、あるべき姿を石川県は文化立県、金沢市は文化都市として定め、生活の質を上げる取り組みを行っている。第三に、企業市民会議では、本会メンバー以外にも1,500社ほどを集

めて年1回企業市民の集いを開催し、勉強会やプロスポーツチームを応援するなど地域貢献活動を行っている。第四に、ふるさと会議では、ふるさと教育の推進に取り組んでいる。地域住民がふるさとを学ぶための金沢検定は18年間も継続しており、サービス業の方々にも定着している。

また毎年、県知事と金沢市長との意見交換会も実施している。新大阪までの新幹線の延伸を前提として、もっと積極的に石川をPRすべきと提案し、具体的な話が進んでいる。さらに文化都市として、コロナ禍で疲弊した金沢の芸妓衆などを応援すべく商工会議所、石川県芸術文化協会と本会が協力して石川伝統芸能支援経済人会議を発足、220人の会員でスタートした。

福井経済同友会

林 正博 代表幹事

北陸新幹線の福井への延伸が本会の中心的な活動テーマであり、開業時期の2年前倒しや敦賀以西ルートを提言してきた。

福井には豊富な観光資源が多くある。7万年分の地層がきれいに残る水月湖、豊臣秀吉に一夜にして攻め滅ぼされた一乗谷、そして漆器、和紙、打ち刃物、陶芸、タンスが産業として残っている。ただ、最大の課題は新幹線以外の二次交通だ。観光地の東尋坊、永平寺、恐竜博物館、一乗谷はそれぞれ数十キロずつ離れている。そこで、MaaS (Mobility as a Service) に関する勉強会を行い、現在、福井市がその実証実験に取り組んでいる。

福井県は幸福度ランキング日本一を維持している。中小企業とそれに伴う雇用がしっかりしていることが経済面で大きな柱となっている。一方で、優秀な高校生は東京の大学に進学すると卒業後に戻ってこない。そこで本会では7年前から県立高校教師との交流会

を始め、企業訪問や意見交換を通じて福井の企業や産業について知っていた

意・見・交・換

各地の報告を受け、以下のような見が交わされた。

●3県の経済同友会がふるさとの教育をする、検定を作るなど、人口が減る中で若い人をどうとどめるか考え、“Do Tank”を実践していることに驚いた。

【横尾 隆義】

●富山県では14～15年前の中尾哲雄代表幹事の時代から、毎年県内の教師10人ほどと海外研修を行っている。これを繰り返していく過程で教育委員会との人間関係が形成され、参加した教師にそれぞれの職場で経済同友会の活動を広めていただいている。【牧田 和樹】

●少子高齢化は日本全国共通の課題だが、北陸3県においては例えば大学卒業後の起業、後継ぎがない伝統的な企業の事業継承などで、外国人材の活用の事例はあるのか。【鈴木 和洋】

●福井大学に留学していた中国人学生が地元企業に入社し、役員まで昇進した例がある。ベトナムの方がベトナム

多く取り組みを行っている。

工場を任されている例もある。福井の企業は海外工場が多い。現地に進出する際に福井大学の留学生に手伝ってもらえないかといった相談もある。

【林 正博】

●人口問題は日本にとって最大の課題だ。人口1億人を下回るまでの間に生産性を上げて少ない人数で稼げるようにすることが重要である。一極集中を是正すること、1人当たりの幸せとGDPを引き上げるためにデジタルとソフトを活用することが重要だが、その最先端にいるのが北陸3県ではないか。

【櫻田 謙悟】

●より強いリーダーシップを発揮し、本音で語っていくことが経済同友会として重要だ。東京一極集中の問題は何十年も前から話題になっているが、国のやる気が感じられない。できないことよりもできることから実践し、関係人口を増やして一緒に交流することが重要だ。【麦野 英順】

参加者

(所属・役職は開催時)

■富山経済同友会

麦野 英順 代表幹事(北陸銀行 特別顧問)
塩井 保彦 代表幹事(広貫堂 取締役会長)
牧田 和樹 代表幹事(牧田組 取締役社長)
有藤 直樹 事務局長

■金沢経済同友会

浜崎 英明 代表幹事(北國銀行 会長)
福光松太郎 代表幹事(福光屋 社長)
砂塚 隆広 代表幹事(北國新聞社 専務)
村浜 肇 専務理事
徳田 学 事務局長

■福井経済同友会

林 正博 代表幹事(福井銀行 取締役会長 兼 代表執行役)
清川 肇 代表幹事(清川メッキ工業 取締役社長)
吉田 真士 代表幹事(福井新聞社 取締役社長)
東山 清和 専務理事・事務局長
竹下 悟史 事務局次長

■経済同友会

櫻田 謙悟 代表幹事(SOMPOホールディングスグループCEO 取締役 代表執行役会長)
岡本 祥治 地域共創委員会副委員長(みらいワークス 取締役社長)
鈴木 和洋 地域共創委員会副委員長(楽天グループ 専務執行役員)
横尾 隆義 地域共創委員会副委員長(地域育成財団 代表理事)
岡野 貞彦 事務局長・代表理事
大原 聡子 事務局・執行役
藤井 大樹 事務局・広報室 次長
古田 一志 事務局・会員業務部 調査役
山内 佳悟 事務局・会員業務部 アシスタント・マネージャー
荒石 浩司 事務局・広報室

中国5県経済同友会 代表幹事との意見交換会

櫻田謙悟代表幹事ら経済同友会幹部は、10月12日から13日にかけて広島市を訪問し、中国5県の代表幹事との意見交換を行った。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、約5年半ぶりとなったが、各地の課題意識や取り組みに関して、活発な議論が行われた。



開会挨拶



櫻田 謙悟
経済同友会 代表幹事

2019年に代表幹事を拝命して以来、ようやく中国地方に伺うことができた。コロナの影響によりそれぞれに予想もし得なかった経験をし、地域の置かれた状況は大きく変わった。本日は皆さんと率直な意見交換をしたい。先日、『生活者共創社会』を発表した。30年にわたる日本低迷に対しやるべきことや改革のメニューは、明らかになっている。なぜそれができなかったのか原因を掘り下げて議論した結果が今回の提言だ。また、2020年に「未来選択会議」を設立した。高校生・大学生から行政、学識経験者、経営者、政治家などに参加してもらい、忌憚のない意見を伺って、今回の提言につなげた。日本が素晴らしい国に戻る最後のチャンスだ。全国の経済同友会の仲間と共に、「生活者共創社会」を実現する努力をしていきたいと考えている。



田村 興造
広島経済同友会 代表幹事

約5年半ぶりに開催できたことを大変うれしく思う。東京と中国地方の経済同友会の認識を共有する貴重な機会だ。岸田文雄総理大臣は30年ぶり、4人目の広島県

出身であり、活躍を大いに期待している。「生活者共創社会」が、岸田首相の掲げる「新しい資本主義」に呼応する一つの選択肢として刺激を与えることを大いに期待している。また、来年には広島でG7が開催される。これに向け官民組織の「広島サミット県民会議」が設立された。今ほど世界平和が持つ意味の大きさを感じる時はない。県民会議を通じ、平和な世界につながるサミットを目指し尽力をしていく。今後も各地経済同友会の皆さまと連携を図りながら、活動の充実を図っていきたい。

各県経済同友会による取り組み紹介

各地の代表幹事から、それぞれの取り組みが報告された。経済同友会の櫻田代表幹事は「生活者共創社会」を説明し、「民主導でイノベーションと成長を牽引する『真の経営者の時代』がやってきた。経営者は力いっぱいやっていこう」と、各地代表幹事に向けて呼び掛けた。

鳥取県経済同友会

米原 正明 代表幹事

鳥取県の高卒卒業生5,000人のうち、県内企業への就職者はおおよそ1,000人。県内就職者のレベルアップが課題だ。卒業生の多くが県内で就職する実業高校では定員割れが続いている。実業の視点を養う視点からも、本会として協力のあり方を検討している。企業は即

戦力人材を、生徒は魅力的なカリキュラムとキャリアプランを、地域は産業政策に沿った人材育成を期待している。教育委員会とも連携し、県内就職者のレベルアップにつなげていきたい。

鳥取県経済同友会

松村 順史 代表幹事

鳥取県は経済圏が東部・中部・西部と分かれている。西部では観光促進に力を入れており、関西学院大学の渥美裕之教授のゼミと連携し、観光のクオリティを上げるという視点で提言作成を進めている。また、関西学院大学の理事を務めている東京の市川晃副代表幹事のお力添えで関西学院大学と協定を結んだ。今後も新たな産業連携に取り組んでいきたいと考えている。

島根県経済同友会

松尾 倫男 代表幹事

JR西日本が4月に不採算路線を発表した。中国5県全てに該当路線がある。明治政府以来、日本は鉄道、道路、港湾、教育機関などを地方に分散し、全国を発展させるべくやってきたが、戦後はおおむね大都市圏に集中して開発を進めてきた。新幹線が通る地域は人口が増え、経済的効果は大きい。現在北海道と九州、北陸で計画が進んでいるが、山陰、四国、東九州が残っている。中国5県の地域は往来がしにくく、食や自然に恵まれてはいても、チャンスに恵まれていない。不採算路線や公

公共交通のあり方について、協議をしていただけたらと思う。

岡山経済同友会

宮長 雅人 代表幹事

5年前の創立70周年の際、30年後の岡山はどうあるべきかを考え、「世界から注目されるモデル地域、桃太郎の国の確立を目指そう」をテーマに提言を作った。当時、SDGsが話題になり始め、SDGs推進会議を立ち上げた。また、教育フォーラムを開催し、瀬戸内海のごみ問題、学校と産業界の連携なども取り上げた。20年には『地域全体で取り組むSDGs先進県へ』を提言するとともに、県内企業の活動情報をまとめた岡山SDGsマップを作成し、県内の高校に配布した。さらに企業や団体の優秀な取り組みを顕彰するなど、産・官・学・金・言の連携で進めている。

広島経済同友会

田村 興造 代表幹事

まちづくり・ひとづくり・しごとづくり・オール広島を4本柱として活動している。昨年度は福山市営競馬場の跡地を有効活用するスポーツパーク構想提言、次世代型観光に向けた取り組みに関する調査報告書を作成した。2016年の都市機能委員会提言はさまざまな波及効果を生んだ。広島は街の老朽化が進んでおり、現在まちづくりを俯瞰的、マクロ的に考え、50年後の統一性ある街のシナリオを作ろうとしている。昨年4月には「広島都心会議」が設立された。地域住民、地権者、民間企業、エリアマネジメント団体や行政などと連携し、まちづくりを推進していく。

山口経済同友会

神田 一成 代表幹事

地域企業の収益性を上げ、賃金を増やして消費の向上を図る循環が必要と

考え、地域おこしを実践する活動家や地方政治経験者、さまざまな会社のトップやコンサルタントの講演など、勉強の機会を多く設けた。DXは言葉だけで終わってしまいがちなので、必要と進め方について考える場を設けた。ま

た、県教育委員会とタイアップし、会員企業による教頭先生の長期派遣研修受け入れも実施した。山口経済同友会は県内経済団体としては最後発だが、「地域をどうしていくか」を考える場として非常に重要だ。

意・見・交・換

各地の報告を受け、以下のような意見が交わされた。

●流動意識が高い若手人材の争奪戦は今後激しくなると思われる。地域の戦略においてもセグメンテーション、ターゲットング、ポジショニングをし、誰に向けて、どんなサービスを提供するか、尖った戦略が大事になる。

【倉橋 隆文】

●例えば介護人材の不足といった生活面のギャップや自力での脱炭素化は、他の地域に依存して経済をつくっていくかなければいけない東京よりも、地域のポテンシャルの方が高いと思う。各地のポテンシャルに目を向け、成長に結び付けていくかが重要だ。【栗原 美津枝】

●DXの推進もあり、地方行政が繁忙を極め、人が足りない聞く。地方議会議員のなり手も少なくなっている。「生活者共創社会」を推進する上でも、根本となるのはしっかりとした民主主義の体制であり、議会と行政は非常に重要だ。今後も議論をさせていただければと思う。

【市川 晃】

●私たちは結果にこだわる組織でありたいと“Do Tank”を標榜しているが、まさに「動いて結果を出して行く具体性のある報告」を中国5県の経済同友会から聞くことができた。むしろ参考にさせていただきたいと思った。

【櫻田 謙悟】

参加者

(所属・役職は開催時)

■鳥取県経済同友会

米原 正明 代表幹事(日ノ丸総本社 取締役相談役)
松村 順史 代表幹事(松村計量器店 代表取締役)
勝井 節朗 事務局長

■島根経済同友会

松尾 倫男 代表幹事(山陰中央新報社 取締役社長)
川上 裕治 代表幹事(松江土建 取締役会長)
黒田浩太郎 事務局長

■岡山経済同友会

宮長 雅人 代表幹事(中国銀行 取締役会長)
梶谷 俊介 代表幹事(岡山トヨタ自動車 取締役社長)
久山 裕士 専務理事・事務局長

■広島経済同友会

田村 興造 代表幹事(広島ガス 取締役会長)
武田 龍雄 代表幹事(広島信用金庫 会長)
谷口 康雄 事務局長

■山口経済同友会

神田 一成 代表幹事(山口銀行 取締役会長)
喜多村 誠 代表幹事(防府通運 取締役社長)
黒瀬 邦彦 事務局長

■経済同友会

櫻田 謙悟 代表幹事(SOMPOホールディングスグループCEO 取締役 代表執行役会長)
市川 晃 副代表幹事/経済同友会の機構改革委員会/全国経済同友会セミナー企画委員会各委員長(住友林業 取締役会長)

栗原美津枝

副代表幹事/環境・エネルギー委員会 委員長(価値総合研究所 取締役会長)

倉橋 隆文

働き方改革委員会 副委員長/第2期ノミネットメンバー(SmartHR 取締役 COO)

岡野 貞彦 事務局長・代表理事

篠塚 肇 常務理事